

ブドウ生産者における疲労度の高い管理作業の検討			
<p>【要約】ブドウ生産者が最も疲労を強く感じる作業は「摘粒」であり、腕や首、肩に疲労を強く感じている。次いで、「ビニル被覆・除去」、「ジベレリン処理」、「新梢の整理」の管理作業が生産者にとって疲労度が高い。</p>			
農業技術振興センター 栽培研究部 花き・果樹分場 果樹担当			【実施期間】平成 19 年度
【部会】農産	【分野】高品質化技術	【予算区分】県単	【成果分類】研究

【背景・ねらい】

ブドウは滋賀県果樹農業振興計画において推進品目としてあげられているが、既存産地では生産者の高齢化が進んでいる。当該計画のブドウ推進目標を達成するには、より一層の省力化を図り既存産地を維持させるとともに、定年帰農者等新規就農高齢者がブドウ栽培に取り組みやすい省力栽培システムの構築が重要である。

そこで、県内ブドウ生産者にアンケート調査を行い、栽培管理作業の中で疲労度が高く、省力化について検討すべき作業を明らかにし、今後の技術開発の基礎資料とする。

【成果の内容・特徴】

生産者が最も疲労を感じる作業は「摘粒」であり、次いで「ビニル被覆・除去」、「ジベレリン処理」、「新梢の整理」である（図 1）。

「摘粒」は年代、性別、身長、栽培品種、面積の違いにかかわらず、生産者が感じる疲労度は強い。一方、「新梢の整理」は生産者の属性により差が大きく、身長 165cm 以上よりも 165cm 以下で、小・中粒種よりも大粒種で、栽培面積 50a 未満よりも 50a 以上で疲労度が強い（図 2）。

疲労を感じる部位等は、「摘粒」が腕 21 %、首と肩 38 %、「ビニル被覆・除去」が全身疲労 60 %、「ジベレリン処理」が腕 31 %、首と肩 44 %、イライラ感やストレス 25 %、「新梢の整理」が腕 38 %、イライラ感やストレス 31 %、首 25 %で、「ビニル被覆・除去」以外は腕、首、肩やイライラ感に集中している。

【成果の活用面・留意点】

調査は、2007 年 7 月 20 日に滋賀県果樹組合連合会ブドウ部会研修会に参加した生産者 38 名を対象に実施した。実施方法は、アンケート用紙を配布し、質問と回答方法を説明した上で回答してもらった。なお、有効回答者数は 31 名であった（表 1）。

省力栽培システムを開発するためには、簡易な摘粒方法、平棚の改良や樹勢調整等によるジベレリン処理と新梢整理の軽労化、簡易なビニル被覆の方法等の検討が必要である。

[具体的データ]

表1 回答者の内訳

										(人)	
性別	年代		身長		栽培面積		品種		ジベレリン処理		
男	21	50歳未満	13	165cm以上	15	50a以上	11	大粒種	13	実施	31
女	10	50歳代	7	165cm未満	15	50a未満	19	小中粒種	16	未実施	0
		60歳以上	11	不明	1	不明	1	不明	1		

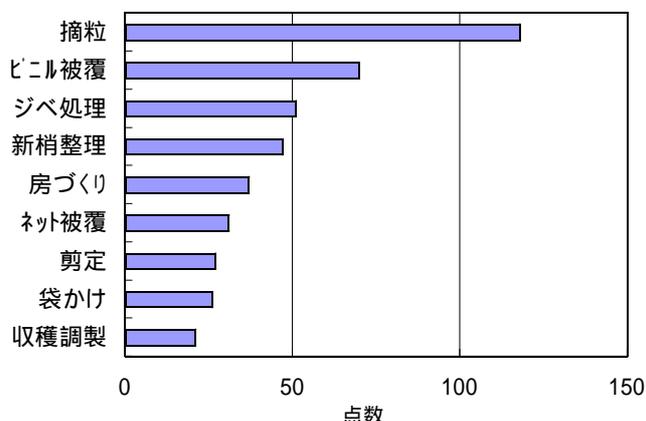


図1 疲労を強く感じる管理作業

：疲労度の高い作業の順に点数を乗じ(一位×5点、二位×4点、三位×3点、四位×2点、五位×1点)加算した。

注：作業の選択肢のひとつに「農薬散布」も挙げておいたが、自ら散布しない回答者が複数名いたため、データから除外した。

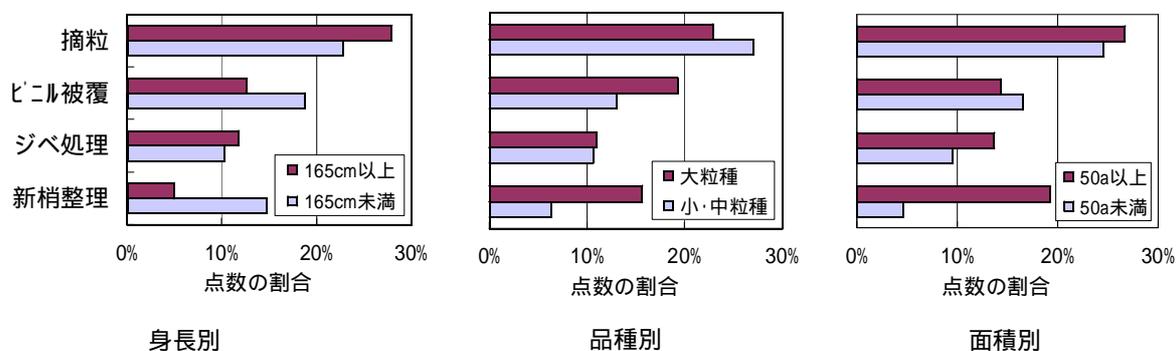


図2 身長・品種・面積別にみた疲労を強く感じる作業の違い

：疲労度の高い作業の順に点数を乗じ(一位×5点、二位×4点、三位×3点、四位×2点、五位×1点)加算した後、全作業の合計点に占める割合を算出した。

[その他]

・ 研究課題名

大課題名：消費者の多様なニーズに応える高品質・高付加価値化技術の開発

中課題名：安全・安心・高品質な農畜産物の生産技術の開発

小課題名：新規生産者に対応した果樹・花きのユニバーサル栽培システムの開発

・ 研究担当者名：小嶋俊英、徳田寿